

AIの導入： あなたの組織は どの段階？



AIの導入や活用方法の扱いは、組織ごとに異なります。以下の質問に答えて、あなたの組織のAI導入の現状を判定しましょう。

各質問について、「はい」の場合は**1ポイント**を加算してください。

1.



経営層レベルで、従業員の**使用を許可**および**禁止するAIツール**を決定していますか？

2.



許可しているAIツールについて、**各従業員に**任せるのではなく、どのようなデータを共有してよいか、何に接続してよいか、どのモデルを使えるかなど、従業員による使用に**具体的なルール**を設けていますか？

3.



それらのルールは**会社の管理対象デバイスに自動で**適用されていますか？それとも従業員が自主的にルールを守ることが頼りにしていますか？

4.



施行中のAIに関するルールや、ルールの適用対象となる従業員やルールの遵守状況について、明日説明するよう監査担当者や役員から求められた場合、その報告書をすぐに作成できますか？

5.



AIベンダーが新しい機能、設定、デフォルト値をリリースしたときに、それに合わせて**AIに関するルールを更新**する担当者はいいますか？

0

レイト アダプター

あなたの会社では、AIをどのように扱うかについて、まだ大きな方針決定がなされていません。

多くの企業がまだこの段階にあります。AIをめぐる問題や変化のスピードは、企業意思決定よりも速く進んでいます。一方で、規制当局は待ってくれません。また、取締役会で最初に聞かれる質問は「自社のデバイスにはどのようなAIが導入されているか」でしょう。最も有益な第一歩は、ポリシーを決定することではなく、まず何が起きているかを把握することです。

1～2

レイト 寄りマジョリティ

あなたの会社ではAIに関する決定がなされていますが、そのルールはほとんどが書面上のものにとどまっています。

従業員は「何が許可されているか」を理解していますが、実際にルールが守られているかどうかは把握できていません。データ漏洩や監査、取締役会からの質問など、いざ問題が発生した際に「ポリシーは策定しました」というだけでは、十分な説明になりません。次に取り組むべきことは、ルールを単なる文書で終わらせず、デバイス管理システムに組み込むことです。

3～4

アーリー 寄りマジョリティ

あなたの会社ではAIプログラムを実際に導入しています。残る課題は、それを最新の状態に維持することです。

AIベンダーは定期的にコントロール機能をアップデートしますが、一方で監査のサイクルは四半期ごとです。この2つ間のギャップが原因で、プログラムは気づかぬうちに遅れをとってしまいます。この段階において最も強固なプログラムとは、AIベンダーの変更を追跡し、独立したコンプライアンスプロジェクトとしてではなく、日々の業務の副産物として監査の証拠を生成できるものです。

5

アーリー アダプター

あなたの会社はすでに大多数の企業に先んじています。今後の課題は、その状態を維持し続けることです。

この段階に到達した企業は、足踏みをしています。AIベンダーが新しいコントロール機能をリリースし続け、規制当局が基準を引き上げ続ける一方で、エージェントAIやコネクタガバナンスといった次なる最先端領域には、ほとんどのプログラムがまだ着手できていません。今後の12ヶ月間は、取り組みを止めずに前進し続ける企業が優位に立つことになるでしょう。

フレームワーク: **Visibility (可視化)** → **Control (制御)** → **Governance (ガバナンス)**

次にすべきことは何でしょうか。適切に管理され、安全で、持続可能なAI導入を実現するためには、以下の3つのステップが必要です。



Visibility (可視化)

社内のシステムでどのようなAIが利用されているのかを把握する



Control (制御)

AIの導入状況をAIが管理する



Governance (ガバナンス)

監査可能で、実際に機能していることを証明する

Jamfの**フィールドガイド**で、**AIフレームワークの詳細**や、AIの利用を可視化・制御してガバナンスの遵守を証明する方法をご確認ください。